岐阜大学機関リポジトリ
Gifu University Institutional Repository

世界文化遺産・白川郷の持続的保全方法に関する研究 - 自然と人間の共存・共生する新しい道を求めて -

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2008-02-22 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 合田, 昭二 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12099/67

はじめに

工業化、都市化をひたすら指向してきた近代社会は、２０世紀の終盤に大きな曲がり角を迎えた。環境・資源・価値観などに関する多面的な問題が、地球上の各地に、また個々の人間の内面に深刻な陰を落とすようになり、近代が作り上げてきた物質文明・精神文化が改めて問い直されるとともに、個々の人間に対しても生活様式の再検討を迫るようになってきた。いま我々は、広い視野から生活文化を見直し、新たな時代に向かっての生活様式を創造することが必要な時点に立っている。

本研究の問題意識は、自然と人間が共存・共生する生活文化の可能性を考察することにあり、対象地域として伝統的生活文化が多くのこり、かつ、現代的な変容の波の中にある山村を選んだ。

伝統的な生活様式を残存させる地域は、単なる歴史の遺物ではなく、未来に向かっての創造に資する多くのものを有している。すなわち、生活の場・産業活動の場として積極的な現代的意義が含まれているとの視角から伝統的山村は考察される必要がある。そうした積極的意味をもつ山村の生活と産業の「持続的保全」の可能性を、自然環境・社会環境・文化環境の面から考察するのが本研究の目的である。

対象とした岐阜県の「白川郷」は、都市化・近代化の波が及びにくかった地域として長い歴史を経過して、合掌造り建築に代表されるすぐれた生活文化が存続し、多くの人の心を惹きつけてきた。

白川村荻町地区の合掌造り集落は、1976 年に国によって伝統的建造物群保存地区に指定され、さらに 1995 年にはユネスコ世界遺産に登録され、貴重な文化財であることが広く知られるようになった。

この文化財の特色は、多くの遺跡・史跡や、モニュメンタルな建造物と異なり、「住民が住み、毎日の日常生活に利用し続けている文化遺産」という点である。また同時に観光資源と住民生活が一体となった地域であり、近代化の方向に変化せんとするインパクトも大きく受けていることも重要な特色である。荻町地区のこうした性格は合掌集落地区の保全がたやすいものではないことを示すとともに、この地域の保全方法の考察を通じて、広く各地の地域づくり、生活環境づくりを考察する上での最先端の問題に迫りうると考えられる。

本報告は平成 11・12 両年度にわたる科学研究費補助金研究課題の最終報告である。上記の問題意識に基づき、自然環境・交通問題・家屋保全・産業変容・文学的伝統・産業遺産の諸側面を題材として、６名の研究者が学際的に白川村荻町地区の詳細な実態分析を行った。とくに「持続的保全」に向けての住民と住民組織の努力の面を掘り下げるとともに、対象地域の文化が有する歴史的蓄積の重要性にも着目した。また、白川郷と共通した条件を有する他地域との比較考察が各テーマの必要に応じてなされている。

現地調査に際しては、白川村をはじめ多くの調査対象地域の住民の方々、行政機関の方々がご協力下さり、多くのご教示と多大のお世話を賜った。心から御礼を申し上げる。